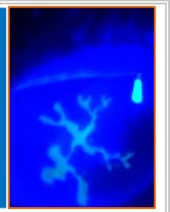
フジタガンカニュース

Vol.164 2024.5.20



目が乾いたらドライアイなの？④

前回号は引用文章の目次を提示して終了となっておりました、中途半端で申し訳ありません。引用文は日本眼科医会のホームページに掲載されている「目についての健康情報」コーナーの「ドライアイに悩む方へ」となります。https://www.gankaikai.or.jp/health/52/index.html

前回号に目次の記載がありますので内容は前回号を確認して頂きたいのですが…(面倒で大変申し訳ありません)1-4 は主に軽症型についての記述、5 は主に重症型ですね。また 6 は軽症型、7-8 は両病型に関わる話、9 は軽症型…という感じでしょうか。特に治療に於いて「涙点プラグ」という涙の出口を塞ぐ治療に関しては「涙が溜まり過ぎる副作用も有り得る治療」となる為、軽症型の患者さんには適合しない場合があります。軽症型と重症型というのは藤田基準の大まかな分け方ですし、両方の要素を持った「中間型」的なドライアイ患者さんもあります。稀にではあるのですが…ドライアイで他院で治療を受けていて中々症状が緩和されない…「単純にもっと強い治療をすれば良いんでしょ！涙点プラグがやりたいです！」という様な考え方の患者さんに出会う事があります。まずはドライアイが重症型かどうか？の判断。さらにアレルギー性結膜炎が影響していないか？老眼を含む眼精疲労が影響していないか？の診断が重要となります。それらの項目をクリアした上で、点眼の治療から始めて「段階を追って」強い治療に移行していくという考え方が重要だと思います(他の眼科でありとあらゆる点眼を試して効果が不十分な経験がある場合にはその段階の「次のステップ」から治療を開始…となると場合によっては藤田眼科を初めて受診したその日に涙点プラグ？という事も…稀にはあります)。そういう患者さんでもドライアイの点眼治療を工夫するだけで改善する事もありますし、アレルギー性結膜炎の治療をする事での改善、実は老眼対策を実施するだけで症状が改善する場合もあるんですよね…実際。また、ドライアイが重症型の場合には基本その症状が強いと考えられますので、アレルギーが…とか老眼が…といった他疾患の事を考慮する前に「まずはドライアイをガッチリ治療なくては！」となる訳なんですね。また上記の中間型の場合にはその辺がケースバイケースで進む…という感じなんですよね。以下、引用文の続きです…

@@@